



題字・天野貞祐

第70号

平成20年5月10日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03(3946)6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 鈴木 莊太郎

----- 主な内容 -----

最近の入試状況と獨協の教育.....	永井伸一...( 1 )
定期総会・懇親会のお知らせ.....	( 3 )
平成19年度決算書.....	( 4 )
平成20年度予算書(案).....	( 5 )
戦時中の頃の事など.....	阿部誠...( 6 )
私の近況.....	( 8 )
私の近況(特別版).....	(10)
クラス会だより.....	(12)
平成20年度大学別合格者数.....	(14)
学園だより.....	(14)
第9回獨協 Doctor's Club 学術講演会開催 ...	荒川泰行...(15)
返信はがき職業欄記入例.....	(16)

## 最近の入試状況と獨協の教育 進学と人間教育をいかに両立させるか



森山元文部大臣・完成時のピオトープ視察

校長 永井 伸一

今世紀に入るミレニアム2000年、平成12年に21代校長として獨協中高に赴任して8年が過ぎようとしています。伝統校は古いよいしきりがあると同時に、新しい考え方がなかなか浸透しない嫌いがあります。しかし、よき伝統は水の流れと同様、常に新しい考え方、時代に合った方策を採り入れなければ澱んでしまいます。獨協の教育理念「学問を通しての人間形成」を行うためには「アタリマエのことを当たり前に行う」とことと「人類と他の生物との共存」を掲げて8年間、生徒諸君の資質・学力向上に励んで参りました。

少子化が叫ばれてすでに10数年大学から中等教育まで競争が激しい今日、中学の入試もその学校がどのような教育理念で教育しているかを塾の指導だけでなく、どのような大学へ進学しているか、さら

にしつけをはじめとした現代社会で生き残れる人間教育をいかにしているかを直接学校に来てその内容を確認してから志望校を決めているのが現状です。本校でも学校内での説明会を11回、外部も含めると28回、両教頭・教務部長をはじめ9名の入試室を中心にしています。その他塾との名詞交換会も含めると大変な量になっています。ここ数年の学校案内には父親の参加が多くなり、また小学校4年生から3年間、自分の目で確かめる傾向が年々強くなっています。

学力向上と人間教育の取り組みの成果が現れたのが平成18年から、世間での評価が一変し、19年度にはサンデー毎日で注目の上位校にランクされました。今年の入試では2月1日70名、2日80名、5日50名と1日受験日を増加した結果、全体の応募者がここ10年で最高の1411名、昨年より340名増加し、合格の最低点が昨年に比べて10点上昇しました。

この結果には前述の説明会と目に見えない在校生の教育への努力があります。それは遅刻をしない、授業はしっかり聞き、予習復習を行う、学力向上は自分のためであることというあたりまえのことを繰り返し生徒に働きかけたこと及び、学力向上のための施策です。

どのような教育改革を行ったかということ英語教育で述べてみます。まず教員が生徒全体のレベルアップ、さらに志のある生徒を難関校合格に持っていける学力、そのためにはどのような教科書にするかが何回も話し合わせ、進学上位校で使用しているプログレスを使用することが決まりました。

幸いプログレスがプログレス21として一新され使いやすくなったことやCD-ROMも採用の決め手になりました。この教科書は現在全国144の進学校で採用され、文部科学省の選定教科書の約3倍の単語(ブック1-3で)からなるもので、使い方によっては失敗しかねない教科書とされています。

この教科書を本校で成功させるためには、教科書を徹底的に分析し、効率的な学習ができる副教材を作成しました。単語は文科省検定教科書(7社×3学年)全単語を頻度分析し、4社以上が扱っている語を「必須暗記最重要単語」、2-3社の語を「これも覚えておこう」、その他の語を「意味がわかればOK」とグレード付けした「単語・連語リスト」をプログレス21のレッスンごとに作成し授業進度に合わせて使います。これと呼応したクラス担任による放

課後の「単語トレーニング」。英文法は教科書の1時間の新出内容を整理暗記できる「獨協中学 英文法I」の冊子。「文型テスト」「英語長文読解トレーニング」「スピーチコンテスト」等、これらをこなすよう教師の苦勞が報われ始めました。

この教科書は現高1が中1のときに使い始められ、その成果が毎年現れています。現在本校では「英検3級」を中学3年までに全員合格するという目標を立てていますがプログレス採用以前の合格率は35~6%と低かったのが、採用した年で56%、次年度は87%。今年はその上のランク準2級の合格者が25名(2年前の5倍)に増加する結果が出ています。

次に人間教育・感性の涵養として獨協では「あらゆる授業で環境を」といううたい文句で環境教育をはじめ、誰でも環境に取り組める、しかもわずかな講習を受けるだけで環境教育の指導ができるアメリカ発の「プロジェクト・ワイルド」を取り入れました。このプログラムを基盤として、学校・地域に応じた様々なスタイルの環境教育プログラムを作成しながら、学校・行政・NGOが共同して環境に取り組む組織を広げようと、文京区の私学6校が参加している「東京環境教育実践研究会」を獨協が中心となり発足させました。

発会式には当時の環境省・炭谷茂事務次官に基調講演をお願いしまして今年で4年目全体の活動と学校単位の活動で着々成果を広げています。

また我が校では生徒65名と教員・PTA・OBとの共同作業で太陽電池の電力だけで流れのある約12メートルのピオトープを作成しました。これはNHKニュースで放映されまた、ナショナル・ジオグラフィックでも紹介され全国に「環境教育の獨協」というイメージづくりに大いに役立ちました。さらに、本年2月には全国ピオトープコンクールで銀賞の表彰まで受けることができました。

また去年は岡山大学との提携で世界初の、最小の土壌、最小の肥料・最小の水でトマト、ゴーヤの栽培実験を行いました。屋上と4階のテラスを緑化しゴーヤを約200本採取し、都会における緑化の基本形のめどがつかしました。今年は本格的に学校の緑化を行い、また家庭に於ける緑化と自分でトマト・ゴーヤを栽培し、趣味と実益を兼ねた果実の簡易栽培セットを作成する予定です。皆様も興味がありましたらご連絡ください。

この8年間同窓会、宮田前会長、鈴木現会長をは

はじめとして、同窓会の皆様には様々なところで支えていただき改めて感謝申し上げます。これから独協の発展のため、苦言も含めて様々なご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

## 総会・懇親会のご案内

今年度の総会・懇親会のご案内のように平成20年6月21日に開催されます。総会では、平成19年度の事業報告、収支決算書および収支差額金の処分

案が付議されます。また、本年度平成20年度の事業計画及び収支予算案が付議されます。本年度の事業計画では、9月27日、28日の両日に開催されます母校の学園祭「獨協祭」に参加することが計画されています。母校の学園祭を見学される方もおられるかと思いますが、同窓生が一息つけるコーナーなどを開設することも予定されています。

総会後は、例年通り椿山荘にて懇親会が開催されます。恩師、旧友も多数参加されますので奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

# 6月21日に平成20年度総会

平成20年度獨協同窓会総会・懇親会を下記のように開催いたします。

日時：平成20年6月21日(土)

場所：

総会会場：獨協中学・高校小講堂

開始時刻：午後5時

懇親会場：椿山荘・ギャラクシー

受付開始：午後6時より

開会時刻：午後6時半より

総会付議事項

第1号議案 平成19年度事業報告及び

平成19年度収支決算報告の件

第2号議案 平成19年度収支差額金処分案承認の件

第3号議案 平成20年度事業計画及び

平成20年度収支予算案承認の件

懇親会費：(会場受付でお支払い)

昭和18年以前の卒業生……………無料

昭和19年～平成14年の卒業生……………5,000円

平成15年～平成19年の卒業生……………2,000円

平成20年の卒業生……………無料

出欠のご返事は同封の返信用封筒で、6月14日必着でお願いします。欠席なさる方は付議事項をご検討の上、委任状に記名・押印してください。(返信用紙職業欄記入例は16頁参照)

## 同窓会、学園祭(獨協祭)に参加!

我が母校の獨協祭が、来たる9月27日(土)・28日(日)の両日に開催されます。同窓会としては、初めての試みになりますが、今年度から学園祭に参加することとなりました。

これまで同窓会の活動についてはあまり在校生には知られていませんでした。将来メンバーとなる在校生、そして既にメンバーである卒業生へ、同窓会の活動内容をアピールすることにあります。また、獨協を見学に来られる受験生(小学6年生)とその保護者の方々(同窓生もいらっしゃるでしょう)へ現在の獨協の素晴らしさと共に、誇りある当校の歴史を紹介するという目的もかねております。

展示内容は、同窓会の活動状況、歴代卒業生の卒業アルバム、獨協史に関わる書物、獨協通信の変遷、天野貞祐先生の著書及び関係資料、等を予定しております。

また、同窓生の団樂の場として飲み物などを用意した茶話コーナーを設け、「目で見ると獨協百年史」や「獨協オリジナル(Dマーク入り)タイピン&ストラップ」等を展示即売する予定です。

更には、天野貞祐先生の肉声テープをブース内に流すという特別企画も用意しております。

是非、皆様の奮ってのご来場をお待ち致しております。(記：櫻田)

# 獨協同窓会 平成19年度 収支決算書

平成19年4月1日から  
平成20年3月31日まで

## 収入の部

(単位:円)

科目	19年度決算額(A)	19年度予算額(B)	(A)-(B)	摘要
1 入会金	6,300,000	6,300,000	0	30,000円×210名
2 会費	6,580,000	7,000,000	420,000	5,000円×1,316件
3 寄付金	55,997	10,000	45,997	
4 事業収入	380,000	310,000	70,000	
総会会費	365,000	300,000	65,000	
名簿売上代	15,000	10,000	5,000	
5 資産運用収入	237,958	220,000	17,958	利息等
6 その他事業積立金より繰入	1,000,000	1,000,000	0	
7 雑収入	13,500	10,000	3,500	
合計	14,567,455	14,850,000	282,545	

## 支出の部

科目	19年度決算額(A)	19年度予算額(B)	(A)-(B)	摘要
1 事業費	9,560,548	10,300,000	739,452	
(1) 総会費	1,881,374	1,900,000	18,626	総会、懇親会費
(2) 会報費(獨協通信)	4,798,821	4,800,000	1,179	68,69号制作費
(3) 事業通信費	1,696,968	2,000,000	303,032	会報発送費等
(4) 慶弔費	85,750	200,000	114,250	
(5) 渉外費	12,285	100,000	87,715	諸会費等
(6) クラス会補助	160,000	300,000	140,000	
(7) 卒業生記念品費	425,350	500,000	74,650	
(8) 中高事業補助	200,000	200,000	0	
(9) 沃野記念館設立寄付	300,000	300,000	0	
2 事務費	2,142,521	3,200,000	1,141,647	
(1) 事務運営費	636,075	900,000	263,925	事務通信費、振込手数料等
(2) 管理費	704,350	1,000,000	295,650	事務局費等
(3) 会議費	323,565	500,000	176,435	
(4) 旅費交通費	356,260	500,000	143,740	
(5) 名簿管理費	90,065	200,000	109,935	
(6) 雑費	32,206	100,000	67,794	
3 予備費	0	800,000	800,000	
小計	11,703,069	14,300,000	2,596,931	
4 収支差額金	2,864,386	550,000	2,314,386	
合計	14,567,055	14,850,000	282,545	

『予備費』当初予算額1,000千円のうち、『総会費』へ200千円振替

### 貸借対照表

平成20年3月31日現在  
(単位:円)

利付国債	20,000,000	(基本財産) 基本金	20,000,000
		(運用財産) 事業積立金	24,415,870
定期預金	22,000,000	(1) 名簿積立金	3,000,000
		(2) 一般事業積立金	22,415,870
現預金	6,280,256	収支差額金	2,864,386
	48,280,256		48,280,256

定期預金は4行に預託。

### 収支差額金処分案

次のとおり、全額積立金に繰入のこととしたい。  
(単位:円)

基本金	1,000,000
名簿積立金	1,000,000
一般事業積立金	864,386
計	2,864,386



## 戦時中の頃の事など

昭和28年卒 阿部 誠

昭和28年に獨協高校を卒業した我々はほぼ昭和9年生れです。戦中派の最後の世代と言えるでしょう。

私が小学1年の昭和16年12月8日、日米戦争が起こりました。そして4年後、昭和20年8月15日、敗戦を迎えました。

私は小学5年になっていました。我々はあの戦時中の軍部独裁の時代を経験しました。当時の思い出の中で、とりわけ印象深かったことを幾つかお話させてください。

当時日本には自動車はほとんどありませんでした。東京の交通機関は『都電』と呼ばれた路面電車が都内を縦横に走っていました。

仮にその都電に乗車したとします。電車が靖国神社の前を通過しますと車掌さんが『靖国神社の前を通ります』と案内します。すると乗客全員が靖国神社に向かい深々と頭を下げます。また都電が皇居の前を通過すると、車掌さんが『宮城（キュウジョウ）の前を通ります』と案内してくれます。これも乗客全員が立ち上がって深々と頭を下げます。まるでS・Fの物語の世界みたいですね。

こんな事もありました。戦死した兵士の遺骨を迎えるというので全校児童が校門の前の通りに整列させられました。白い布で巻かれた遺骨の箱を首にかけた軍服姿の人が私たちの前を通ります。その箱に向って私達全員が最敬礼をします。戦後ずっと後になって聞いた話ですが、遺族の元に届いた箱は、石ころが二つ三つ入っただけであったそうです。遺族を愚弄した話です。

そんな出たら目な事に日本国民が黙って従っていたのはなぜでしょう。特高警察と憲兵が怖かったからです。密告されるのも怖かったのです。戦時中とはそんなバカバカしい時代であったのです。

さて、昭和20年2月に都内の小学校は授業を停止しました。アメリカ軍の空爆が激しくなったからです。その前年の秋には多くの児童は集団疎開で東京を離れました。体の弱い子供（その中に私も入っていました）が少人数で授業を行っていました。その授業が、打ち切りになったのです。

私は埼玉県志木町（当時の名称）から歩いて

40分ほどの在に疎開していた叔父の家に預けられました。そこから地元の小学校へ通いました。当時の志木駅は今と違っていました。駅周辺は商店が1軒もありません。そんな田舎でしたが、東京の近郊です。交通には便利でした。

5月のある日、東京の実家に久しぶりで帰りました。戦傷を受けて除隊していた末の伯父が同行してくれました。

その晩空襲に遭ったのです。

それまで東京は毎晩のように空襲を受けていましたが、我が家一帯は山の手でしたので比較的被害に遭っていませんでした。が、その晩は違っていました。夜、空襲警報が鳴りました。私達一家は防空壕に避難していました。焼夷爆弾の落ちる音がいつもと違っていました。壕の外へ出て様子を窺っていた母が、突然カン高い声で叫びました。

『もう逃げなきゃダメ！』

壕から出ると、我が家の裏手はすでに火の手が回っていました。

父は丁度肺炎を発病して、40度の高熱が出ていましたので、姉とその夫の義兄と負傷した伯父とが付き添って先に逃げました。

我々の合言葉は『風上へ逃げろ』でした。裏の鳥小屋では飼っていた鶏が、異様な鳴き声を上げて叫んでいました。

そのときでした。聞き慣れた音よりひと際高い「ヒュルヒュルー・ズドーン」と地響きがして6～70メートル空き地を隔てた先の大きなお屋敷に焼夷爆弾が落ちました。

一瞬お屋敷全体が炎に包まれ火柱が高く上がりました。母と私と兄の3人は道路に出て逃げようとしたのですが、父達が避難した風上の通路は、すでに火に包まれていました。

仕方がないので、強制疎開で壊された空き地を伝って大通りへ避難して行きました。途中姉夫婦が暮らしていた家の前を通るとその家から炎が盛んに上がっていました。庭の塀は倒れ、防空壕の穴にはコンクリートの防火用水がスッポリはまり込んでいました。姉夫婦が我が家に避難していなかったらどうなっていたでしょう。

我々3人は、大通りへ出ると風上に向かって南の方角に走りました。すでに息のあがっている母の手を引きながら走りました。

少し行くと、まだその辺り一帯は火が回っていません。しばらく歩いて中学校（旧制）へ辿り着きました。そこは前の空襲で全焼して空き地になっていたのです。既に多くの人が避難して来ていました。我々は窪地を見つけるとその中へ入り込みました。上空は強風が吹いていました。その風に乗って、畳一枚ほどの大きさの焼けたトタン板が時々舞って行きました。そして私達はそこで一晩中待機していました。夜が明けると顔見知りの小母さんが通りかかりました。

『阿部さんのお父さんは小学校に避難している。』と教えてくれました。そこで、私の通っていた小学校へ向かいました。学校とその近辺一帯は焼け残っていました。

校庭は避難して来た人で混雑していましたが、父の一行とはすぐ出会えました。隣では全身やけどを負った人が運ばれていました。

間もなく私達は焼けた自宅へと引き返しました。そこは一面、見渡す限り焼け野原となっていました。

家々はすべて焼け、立木は黒焦げ、まだ焼け跡から煙が上がっていました。満水にしていたはずの鉄の五右衛門風呂の水はカラカラでした。残っていたのは防空壕だけでした。

いや、もう一つ残っている「物」がありました。昨夜、叫んでいた鶏君のコンガリ焼けた遺体でした。

それを見て私達は何故か大笑いをしてしまいました。これまでの緊張が一挙に溶けた安堵感だったからなのでしょう。無論鶏の冥福を祈りつつその遺体は私達の胃袋に納まりました。

私達一家全員が無事だったのは本当に奇跡としか言いようがありません。我が家と隣接したお宅では1名亡くなりました。あちこちで家族を失った方々があり、一家全滅のお宅もありました。普段威張り返っていた在郷軍人の一家は、全員が死亡しました。

母の判断が的確だったのと、父が高熱を出したので姉夫婦が心配して手伝いに来ていた偶然とが幸いしたと言えるでしょう。

私と伯父はその日早々に志木へ引き揚げました。それから間もなく8月15日の敗戦を迎えたのです。

戦時中のこの体験が老いを迎えようとしている今も、何が正で何が邪かを判断するのに役立つ

と思えてなりません。

.....追記.....

編集部からの要請がありましたので、これまでの記述で説明不足の部分捕捉いたします。

当時『都電』は都民の足でありましたが、戦後も活躍しました。都電が走っていたころのことをご記憶の方も多いでしょう。

一時は、通勤時間帯は乗車できない人があふれるほどの混雑ぶりでした。しかし自動車の普及に伴い、昭和47年ごろ『荒川線』を除いて全線が廃止されました。そのころの線路のポイント切り替えなどは手動でしたし、終点の折り返し地点の停留所では運転手さんがポール（パンタグラフ）が逆に向くように手で紐を引いて、操作していました。今思えばのどかな交通機関でした。

さて、我が家は全員が奇跡的に助かったと申し上げましたが、私事ながらその家族を紹介させていただきます。

家族構成は、両親と兄弟4人。一番上が姉、その下が男3人で、私とその末席を穢しておりました。つまり、義兄を含めて7人家族でした。

姉夫婦は近くに居住していましたが、毎日の暮らしは一家と同じだったように思います。義兄は仁科芳雄博士の理化学研究所に勤務していましたので、軍隊には取られなかったのです。終戦直前米軍が広島・長崎へ新型爆弾を投下しました。義兄は我々に「これは原子爆弾と言うものだ」と教えてくれました。戦後は東北大学へ招聘され、工学部の教授となりました。

1番上の兄は東大在学中でしたが、学徒動員で神奈川県軍需工場で働いていました。昭和20年9月、軍隊に行くことに決定していましたが、終戦で取り止めとなりました。

母と私と3人で火中を一緒に逃れたのが次兄で、獨協中学に在籍していました。ですから同窓会名簿には昭和23年卒の項目に名前が記載されています。その後早稲田大学を卒業し、今も健在であります。

こうして我が家では、戦争や戦火のために命を失った者は一人もおりません。今、つくづくラッキーであったと思います。肺炎で高熱を出していた父は、間もなく近くの女子医専（後の女子医大）に入院できました。

昭和22年私は獨協中学へ入学しました。その中学から高校への6年間の思いではまたの機会があればお話ししたいと思います。（終り）

## 私の近況.....卒業ン十年

獨協入学は満州事変、卒業は支那事変、大学は太平洋戦争、そして軍隊、シベリアの捕虜、帰還は29歳、でも獨協はいつでも傍に。ユニークな諸先生、校内の桜、グール先生の中古車、ドンヤ洋服店のママさん、現在同窓生5人で時々集っております。

湯浅 幸男(昭13年卒)

卒業して早くも70年近く経ちこの2月には88歳を迎えました。現在は数年前に転んでうった腰の痛み以外には具合の悪い処なく毎日元気に過しております。同期生も2~3年前迄は5~6人集って飲んで話して楽しく過したものでしたが、最近はこの人数が集まることはやや困難になってきましたが機会があれば集まろうという気持は皆もっています。小生は日課という程のものでもありませんが木を彫ることが好きで楽しく現在ではミニチュアの家具の制作に専念しており、京都の学校時代のOB展には毎年欠かさず出品しております。

菊地 敏之(昭13卒)

卒業して60年、喜寿を迎えました。中学一年の時入部した馬術部での日々が懐かしく思い出されます。今ではその馬をモチーフに油絵を描いて老後を楽しんでいます。

上田 豊(昭23卒)

会社をリタイヤーして6年、一昨年より環境ベンチャーをやっている友人を手伝って、油に水を20~30%加えたエマルジョン燃料の開発を行っています。

石黒 三郎(昭23卒)

体調を崩して、9年たちますが今は、何とか元気になっています。

原田 昌彦(昭23卒)

薬剤師国家試験・全国一番と業界紙で報道されました。昭和26年5月です。製薬企業で、殆どの領域の新薬誕生に関わりました。今でも、薬の話を良く頼まれます。小学校唱歌「旅愁」を覚えてたのドイツ語で替え歌もどきのものを作り、時々歌ったのが思い出です。

栗原 忠聖(昭23卒)

診療を長男に任せ、DGRの明け暮れです。Dとはソシアルダンス、Gはゴルフ、いずれも手入れのこと、庭がないので屋上に鉢植え60本、害虫・病気・水やりに悩まされる毎日です。

小林 明博(昭23卒)

(校舎を戦火より死守)今年太平洋戦争、敗戦から63年になる。我々同期生は交替で学校に泊り込み、B29の東京爆撃火の海の中から明治校舎を死守した。

戦後GHQ(マッカーサー指令部)から学校がドイツ系と誤解の無きように「獨逸学協会中学校」を「独立協和学園」(獨協)と改名、日本紙に墨書きし門柱に張りつけた、涙が止らなかった。現在は八ヶ岳の山麓で、GOLF・スローフーズライフを楽しんでいる。(弟2人も獨協です)

大倉 郁雄(昭23卒)

平成20年(2008年)で77歳となりました。昨年9月、北里大学病院を退院して長男の息子の所で暮らして居ります。家族は5人です。デーサービスで週2回マージャンと将棋を楽しんで居ります。

戸倉 康男(昭23卒)

4年前に教授(皮膚科学)を停年で退職し、その後は求められて老健の施設長と帝京大学の外来診療を行っています。また、本年3月には美容学校も辞めますので、学生との係わりは臨床実習だけになります。

増谷 衛(昭33卒)

私が獨協学園入学時、学園は校長人事の刷新紛争もあってかどん底時代だったようで、学年全体でも総生徒数53人で1学級しか出来ない中学3年間でした。だが、それなりに愉快な3年間でもありました。ところが、高等部は今度は一挙に5学級に増加、53人は各々の進路を歩むという歴史的なエポックの思い出があります。

池田 直一(昭33卒)

卒業して50年になり定年を過ぎましたが、医師不足も幸して勤務医として江東病院で働いています。この年になって患者さんの苦情も何とか消化出来、少し暇も作り楽しみながら働いています。

黒田 博之(昭33卒)

今年卒業50周年を迎えます。今でも天野先生の毎週の訓示が懐しく思い出されます。卒業半世紀を記念して、学年の同窓会：燦々会を盛大にやろうと幹事諸兄と案を練っているところです。

佐々木 秀明(昭33卒)

昭和33年卒業で、超御無沙汰してます。中学に入学した時は、生徒数も少なく、ドイツが敗戦国のせいもあり、ドイツ語クラスは10人という家族的なクラスでした。ドイツ語の先生は漆山というおじいさん先生と富岡、奥貫と若い二人の先生に、酒井アルマという中年女性のドイツ人講師でした。漆山先生には「もっと勉強せい!」と皆叱られました。今は、叱る先生は殆んどいない世の中、当時は良い先生が多かったと思います。私はなんとか医者となり

## 私の近況.....卒業ン十年

患者さんの感謝の言葉を生きがいに停年退職後も、今はボツボツやっています。医者が感謝されず訴えられる御時世、感謝の気持ちがなくなってるように思っています。感謝の気持ちを忘れず、生活するよう心がけております。

福井 秀義(昭33卒)

度々上京するのですが、母校には卒業以来一度も行っていません。総会の折り、時間をつくって参加したいと思っています。

中山 晃(昭33卒)

卒業して、早50年が過ぎましたが、まだまだ現役で頑張っております。健康維持のため、毎日のウォーキングはかかせません。冬場に休業していた趣味のゴルフも再会しました。

福島 尹夫(昭33卒)

小生、建設機械メーカーをリタイヤして早8年、Golf、スポーツクラブに、地域の自治会連合会の役員でボランティアに参加、又奥の深い蕎麦打ちを習い、日々を送っています。

浅井 賢二(昭33卒)

校庭の朝礼で聞いた天野貞祐校長の慈愛に満ち、時に力強い訓話、クラス担当の富岡先生もさることながら、先生方の優しさ時には厳しさ、出入りが自由にできた椿山荘に弁当を持ち込んで美味しかった昼食など、凡てが懐かしい思い出です。卒後、産婦人科医として地域医療に携わって40年、後継に恵まれ、趣味の写真もエンジョイしています。獨協学園の建学精神に、新しい息吹きを加えて益々の発展を願っています。

田中 雅治(昭33卒)

私は、大学を卒業してから札幌に住んでおります。燃料関係の会社を経営しております。札幌は獨協の卒業生がいないのでさびしい気持です。趣味はゴルフをやっております。

大越 克巳(昭43卒)

還暦を目前にし、今や絶滅危惧種といわれる産婦人科医としても30有余がたち引きぎわを考える頃です。ただ年間分娩数700件をこえる産院の移転も来年に完了させその後、後進に移譲するつもりです。

浦野 晴美(昭43卒)

団塊世代真っ只中、人生のギャチェンジ中です。孫見(初孫の世話)と鳥見(バードウォッチング)が至福の時です。仕事はその後となりそうです。(いつ、社長の椅子を渡しましょうか...?)

高橋 優(昭43卒)

殆どどの時間を勉強に費やした結果、日本医大と岩手医大に合格したが、満員電車が怖くて岩手を選

んだ。そのまま東京に残っていたらカリスマ医師になったかも? 現実には田舎医者に甘んじている。

細谷 重明(昭43卒)

卒業から30年、初めての同窓会に参加、なつかしい顔に出会い、あっという間に2時間が過ぎました。今回は幹事として皆さんのお世話をさせて頂きましたが、運営の難しさを知った今日この頃です。

田尻 明(昭53卒)

大学で日本拳法部と出会い、学生時代はほとんど練習に明け暮れていました。現在も8月の歯学体の際は休診にして日本全国、後輩の応援の為、奔走しています。卒業30年、今でも獨協時代の友人と年に何回か旧交を温めています。

西原 由恭(昭53卒)

昭和53年卒業の卒業30周年記念懇親会が2月10日(日)にホテルメッツ目白で開催されました。30年ぶりの再会に古話に会場は大いに盛り上がりました。獨協生でいたことの誇りと自信をあらためて感じることできたすばらしい時を過しました。幹事の皆様ご苦勞様でした。そしてありがとうございました。

坂井 英貴(昭53卒)

現在、札幌市内で外科医として勤務しています。昭和53年に卒業して以来、北海道に移り住み30年になりました。先日、30年振りの同窓会、同期会が続けて開かれ、懐かしく楽しく過しました。

小谷 裕美(昭53卒)

近況報告の指名を頂きましたが、本年度通算10回の新春をドイツで迎えております。デュセルドルフで妻、娘3人と寒さに負けず頑張っております。残念ながら出稿不可能でございます。(留守宅より)

寺元 仁志(昭53卒)

30年ぶりの同窓会、懐しい顔であふれていました。3年前に赤羽で町医者開業しました。

碓井 亘(昭53卒)

卒後30年です、私は父の後を継いで三鷹で整形外科を開業し10年がすぎました。

加藤 謙二(昭53卒)

卒業して30年、獨協卒を誇りに思ってきました。10数年前から目白の獨協生の評判が悪く危惧していました。最近息子の受験で偏差値をみると以前のライバル校と大きく水をあけられ、塾では受験校の対象外です。でも現校長のもと上昇傾向に感じられ

## 私の近況.....卒業ン十年

ます。再び獨協ブランドを取り戻しましょう。

五十嵐 俊夫(昭53卒)

合田先生にABCを教えて頂いてから30余年、ドイツもドイツ語も変わりましたが、仕事で彼の地に降り立つと臉に目白の教室での光景が甦ります。

谷口 有三(昭53卒)

進路変更して入り直した歯科大を、実習助手になっていた同級生達の助力で卒業して18年。卒後30周年祝賀会では、たくさんの懐かしい顔に出会えました。  
庄司 晃(昭53卒)

## 私の近況.....卒業ン十年

## 特別版

「卒業後 ン十年」は10年毎に編集部が卒業生の方々に往復はがきを送付し、返信はがきに近況を報告していただいておりますが、今回は、長文の近況報告があり、特別版としてここに掲載しました。往時の獨協の様子が分かる貴重な寄稿となっておりますので、ぜひともお読みいただければと考えています。  
(編集部)

## 当時を知る方はご連絡を

齋藤 資郎(昭和13卒)

昭和8年小学校は出たが4月になっても中学はきまらない。獨協の口頭試問は齋田先生の「花よりも青史に悲し吉野山」は分りますか?が唯一の試問、帰りに薄い封筒を渡された。

私にも春が来て、庭には海棠の花が咲いていた。入学した昭和8年秋には獨協創立50年の祝典があり、西周(ニシアマネ)の幕末の偉業等を教えられた。校歌の「あゝ九百の健男子」は私が入った頃は門前雀羅、全学450人でしかなかった。

世相は騒然として「五・一五事件」と二・二六事件の狭間に在り、軍部はこわいものに替っていた。

昭和13年卒、その間戦死者も多かったが同期会は菊地、山川両君の努力により盛時は35人ほど集まった。現在菊地、山川、湯浅、柴野、杉村の諸君丈になってしまった。外に今でも4・5名いると思われるので、是非ご連絡いただきたい。『米寿』よくこれまで生かしてもらったと思いながら一筆しました。

## 猛爆撃から護り抜いた我が獨協

大倉 郁雄(昭23卒)

太平洋戦争・東京大空襲・無条件降伏・連合国の日本占領・苦しかった戦後の獨協。我々の獨協時代

は幾度となく国の存亡・価値観の転換・社会の変化に晒されて来た。国防色(カーキ色)の制服・戦闘帽と鉄甲・ゲートル・血液型記入の名札を胸に同期300名と入学・学科の他に軍事教練が重要な必修科目。「軍人勅語」の暗唱(2年生)富士の裾野を木銃を担い這いづり廻った野営・空爆から自らを守る為の鯖壺式シェルターを2人で一穴づつ校庭に掘る日課・上級生は全学年軍需工場へ動員されて不在・留巢を守る我々は菊の御紋章入のニューモデルの歩兵銃での教練が始ったが束の間、天皇陛下から御預りしている銃として陸軍へ調達されてしまった。サイパン島玉砕・米空軍B29の基地が完備され日本全土に昼夜の無差別盲爆が始まる(3年生)学校は夜間の空襲に備え毎晩十名交替で校長室に泊り込む、僕達は自分の家が爆撃に晒されるのも省みず校舎の守りに当った。3月10日夜間では初の東京大空襲・60万発の焼夷弾が落され東京の下町は火の海、全焼、焼死者10万人余、東京は無抵抗の戦場だった。

焼跡の整理の為湯島天神から浅草までの間に勤労動員が命ぜられた。あまりの悲惨さに語る事も出来ない。4月13日(小生当番)夜半B29・500機。富士山方面から来襲・神楽坂・矢来・東五軒町・大曲・本郷・小日向台全焼この夜は我が軍も対空砲火で敵B29を東京上空で十数機撃ち落す。5月24・5日東京での最後の大空襲、焼け残った街を中心に狙い攻撃・皇居・東京駅を始め、新宿・早稲田・鶴巻・音羽・池袋・目白・雑司谷・関口台・フランス教会(現カテドラル)焼失。この日猛火の海から校舎を守り抜いたのは英語科の仲間だった。三度の夜間大空襲で東京は全滅、先生も生徒の多くは焼跡での穴ぐら生活や田舎をたより逃げのびてちりぢりばらばらとなっていた。

こんな我々に又もや動員命令が続いた。6月赤羽のゴム工場へ(すぐ焼失した)・南多摩の忠生村(現、原町田附近)に農村動員が発令され登校可能だった

3年生約50名が、各農家に1名ずつ泊り込み麦刈や田の草取りの農作業。敵空母から発進のグラマン戦闘機の機銃掃射に脅かされながら、辛い18日間を奉仕した。8月15日、日本降伏、連合国による日本占領、マッカーサー東京へ進駐（G.H.Q.ゼネラル・ヘッド・クォーター）。日本全土の武装解除・獨協の兵器庫（防空ごう）から旧式の村田銃も接收の対象となった。獨協は「ナチ・ドイツ」と関係が有るのではと誤解を招いてはと苦肉の策で「独逸学協会中学校」を「独立協和学園」（獨協）と改名、日本紙に墨で筆がきし門柱に張りつけた涙が出た。ドイツ国とドイツ語は地に落ちた、英語全盛の時代が到来、非国民扱いをされていた、英語の先生が生神様に変身、我々も英語を習いたくても獨協には、只1人しか英語の先生は居られなかった。「国破れて山河有り」「我が獨協は校舎と学生が残った」。長かった戦争は終り、自由平等の時代が到来したとは言え、戦後の生活はより苦しく食糧難とインフレの波が押し寄せた。ちりぢりになっていた先生仲間達も焼土の中に建つ校舎を頼りにボツボツ戻って来たのだが空襲で校舎は荒れはて窓ガラスは破れ床や壁は穴だらけ寒風が教室を吹き抜けていた。先生も生徒も皆空腹と寒さのため壊れた机や板切れを燃やし暖をとる歯を喰いしばり勉強した、大学もドイツ語で受験した。

仲間と命を張って護り抜いた我等の心の拠り所となったあの明治の木造校舎が無かりせば天野貞祐先生を御迎えする事も適わなかったのではなかったか。運命の夜から63年同期の仲間を代表して記します。

### 獨協の思い出

石黒 三郎（昭23卒）

私が獨協の門をくぐったのは戦争も酷の昭和18年春であった。当時は配属将校が校長の傍に陣取り目を光らし、教練とか勤労奉仕が多く勉強は余り出来なかったと記憶している。そして昭和20年5月25日家が戦災で焼け、富山へ疎開したので、獨協生活は約2年で終了した。その後魚津中学、和歌山中学、旧制浦和高校と転じ、中学高校で4校通学したことになる。大学卒業後鉱山会社に就職して獨協のことは忘れていたが、再び獨協を思い起こしたのは会社の研究所に勤務していた時、洗浄塔を設置して

いた工事会社の課長が獨協魂と何回も言っているの、聞いてみたところ獨協卒業の中川真之介氏（昭和39年卒）であった。それから連絡がついて2年しか在籍していないにも拘わらず獨協卒業生名簿に入れて頂いた訳である。さらに中川氏の父上が粉末冶金工業界事務局長をされていた関係で存じ上げており、不思議な御縁を感じる次第である。

言い忘れましたが、2歳下の弟も僅か2ヶ月ですが獨協に在籍し、さらに孫が一昨年春に入学し4月より3年生で、こう考えると私の人生は獨協を中心に何か大きな縁で結ばれているように思われる。

### ふうてん先生のおもいで

田中 利夫（昭35卒）

昨年7月7日付のある新聞で、特別養護老人ホームに入所しておられる村松定孝先生を知り、懐かしさのあまり無礼を顧みず獨協時代のおもいでを“ふうてん先生へ”として書き送ったところ、何と、思ってもみぬ喜び、10日程して御返事を頂きました。

葉書は緑繁る明るい庭を背景に、椅子にかけた横顔の先生の写真。文中には「ふうてん時代をいつもなつかしく回想して居り升」「ここの生活は老人ホームですが快適です」とお元気の様子でしたが……………10月5日に逝去されたことをやはり新聞で知った次第。

思えば私が獨協中学に入学した昭和29年度から国語を受けもたれ、中3時は担任をされたが入学から既に先生は「ふうてん先生」と呼ばれて居り、自身もそれを認め交友会誌“めじろ”73号（昭31年）には「或る日の風天先生」という授業中の生徒との出来事を書かれているが、当時の先生と獨協生のおおらかな日常がしのばれ懐かしさで一杯になります。

授業中の先生はしばしば脱線され、私達はその脱線話が楽しみで席に着きました。ある時遊女買いの話になり、客が一夜明け、床に腹ばったまま洗面器に少しばかりの湯で口を漱ぎ顔を洗うという儀式を身ぶり手ぶりで語り、自づからも引きつけを起した様な独特の笑い声で、少々猫背の長身を揺らす先生に私達は腹をよじり拍手喝采したのを今も思い出す。あの楽しい授業は生涯忘れる事はあるまい。

われらが風天先生の冥福を心よりお祈りします。風天先生さようなら。

## クラス会だより

### 昭和19年卒ドイツ語科 獨協五三会

平成19年9月21日(金) 東中野駅前の日本閣WEST53rdで開催しました。所在の分かった35名に連絡したところ出席11名欠席24名です。流石に80歳以上ともなると体調不良の人が多く仕事での欠席者は少数でした。五関善四郎君が初参加し、参加し話などが出て大いに盛り上がり、途中で歌橋君による手品があり、いつ見てもうまいものでした。熊本県在住の植田富士夫君より、思いがけなく焼酎の差し入れがあり有難く頂戴致しました。愉快な一日でしたが元気の為に食後に色トリドリのカプセルを取り出しているのを見て(私も同じ)年だなあと考えさせられました。(石沢・記)



### 昭和25年卒 獨協大豆会

昭25年卒獨協大豆会を2年振りに11月9日(金)台東区上野JR御徒町駅そばの吉池5階「池



田屋」で恩師文学博士、大久間喜一郎先生のご出席を賜り17名で楽しく談笑し2時間半が「あっというまに」すぎました。皆非常に元気で76歳を過ぎているのにアルコール類を大量に飲むのには非常に驚きました。健康な事で喜ぶべき事と思いましたが(アルコールのためな人もいましたが) (市村 圭司郎・記)

### 昭和26年卒 ドイツ語組

平成19年11月6日、新日鉱HD六本木クラブにて開催。昨年も同月同日同会場でしたが、座敷から会議室に替えて行いました。16名が集い時間が経つにつれて盛あがり楽しい会となりました。

私たちが過ごした終戦直後の学校は、新校舎・旧校舎(本校舎)とも木造2階建てで、空襲の焼夷弾による類焼に備え、天井の板が全部取り払われていて屋根の裏側が直接見える教室でした。冷暖房は望むべくもなく、校庭の土のついたままの靴や下駄でどこでも出入りしたので雨の日には、床は泥だらけ、それが乾くと、でこぼこにこびりついていました。修学旅行としては、高2で日光、高3で箱根の一泊でした。卒業の時は朝礼台の前に全員が並んで集合写真を撮りました。クラス会には、いつも誰かが当時のスナップ写真を持ってきますが、いずれもセピア色となっていて当時の校舎やみんなのみすぼらしい服装を見ては懐かしんでいます。写っている者が誰だかわからないことしばしばです。

来年も一同で会うことを確かめ合って、75歳同士が元気な再会するのを楽しみに別れを惜しみつつ散会しました。(土屋 隆・記)



獨協クラス会07/11/6於六本木クラブ

## クラス会だより

### 昭和42年卒 同窓会

今年から還暦を迎えるのを機に、同窓会を3月15日(土)に開催しました。今回の開催に当り、独語の浅野一君、英語の海田正則君の発案により、卒業後初の合同クラス会をやるうということで、独語・英語クラスから約10名ずつの世話人の協力のもと、半年間、毎月の打合せを重ね、実現の運びとなりました。

当日は午後3時から高校に集合し、永井校長による現在の高校の近況ご説明の後、校舎、体育館、ピオトープ等を見学し、その後、プロカメラマンの畑傑君により集合写真を撮影しました。

続いて、椿山荘に場所を移し、17時から懇親会となりました。

永井校長、糸井透、篠原寛、新宮譲治、田代雄一、吉田卓司、金有一、児玉仁士の各先生方のご

臨席を仰ぎ、同窓生は83名が出席しました。

卒業後初めて顔を合わせる者も多く、名札を見ながら互いを確認する光景があちこちで見られました。

馬淵哲夫君、須藤明弘君の司会で懇親会が始まり、獨協学園の研究で博士号を授与された新宮先生のご挨拶、永井校長のご発声による乾杯、各先生方のご挨拶の後、歓談に入りました。

しばらく思い出話で盛り上がった後、二人の楽団「北川桜とエーデルワイス ムジカンテン」により、ローレライ、野ばらなどの懐かしいドイツ語の歌に続き、全員、輪になっての踊りなど、さながらドイツのビアホール状態となり、最高の盛り上がりとなりました。

続いて校歌斉唱の後、2時間半の宴もアツという間に終わりを告げ、またの再会を期して閉会となりました。(幹事：野澤 正・記)

## 獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い

同窓生各位

獨協中学・高等学校 P T A  
会長 木原 正義

謹啓

同窓生の皆様におかれましては、日頃よりPTAにご理解、ご支援いただきまして誠にありがとうございます。

さて、今年度も9月27日(土)・28日(日)の日程で獨協祭が開催されますが、今年から同窓会も獨協祭に参加予定になっております。PTAでは、毎年会員の皆様の温かいご協力を賜り、バザー活動を行っておりますが、本年度より同窓会の皆様にも参加して頂き、バザー用品のご寄付ならびにご提供をお願いいたくご案内申し上げます。バザーの収益金は学校の施設改善費の一部ならびに学友会への補助金としてクラブ活動等の活性化に役立てられております。年々品数が少なくなり収益金も減少しておりますので、誠に恐縮ですが、皆様にはバザーの主旨を理解していただき、まだお手元に眠っているお品物がございましたら、下記要領をご参照のうえ、ご提供をいたたく重ねてお願い申し上げます。尚、問い合わせ等は、

事務室までお願い致します。

敬白

記

### 1. 受付期間とご提供の方法

- ・9月12日(金)～26日(金)
- ・宅急便にて下記宛にお送りください。(元払いをお願い致します。)

〒112-0014 文京区関口3-8-1

獨協中学・高等学校「PTA厚生委員会」  
03-3943-3651

・直接学校へご持参いただく場合は、主事室前廊下で受付しております。

### 2. ご提供品について

- ・新品もしくは未使用のものをお願い致します。
- ・会社名などが入っているもの、試供品・景品・粗品などはご遠慮ください。
- ・食品は賞味期限に余裕のあるもの、未開封のものをお願い致します。また、手作りのお菓子は焼き菓子に限らせていただきます。
- ・手作り品は材料費を明記してください。
- ・雑巾は、浴用タオルを四つ折にしてミシンまたは手縫いをしたもの。

## 平成20年度大学別合格者数(延べ人数)

進路指導部・平成20年3月末現在

<国立大学>		国土館大学	3	桐蔭横浜大学	1	明海大学	5
筑波大学	1	駒澤大学	6	東海大学	10	明治大学	10
東京学芸大学	1	芝浦工業大学	5	東京医科大学	2	明治学院大学	6
東京農工大学	1	秀明大学	1	東京経済大学	5	明星大学	1
東北大学	1	順天堂大学	2	東京工科大学	1	目白大学	6
小計	4	上智大学	5	東京歯科大学	1	立教大学	5
		昭和大学	3	東京農業大学	6	立正大学	5
<私立大学>		駿河台大学	1	東京薬科大学	2	立命館大学	1
青山学院大学	11	成蹊大学	6	東京理科大学	14	和光大学	2
亜細亜大学	2	成城大学	7	東邦大学	5	早稲田大学	5
岩手医科大学	3	聖マリアンナ医科大学	1	東洋大学	8	小計	331
学習院大	4	専修大学	8	東洋学園大学	1		
神奈川大学	2	大正大学	4	徳島文理大学	2	<専門学校>	
神奈川工科大学	4	大東文化大学	3	獨協大学	30	青山ファッションカレッジ	1
神奈川歯科大学	5	拓殖大学	2	獨協医科大学	4	東京ビジュアルアーツ専門学校	1
神田外語大学	1	多摩大学	2	日本大学	30	東京ミュージック&パフォーマンス尚美	1
北里大学	3	玉川大学	6	日本医科大学	1	日本外国語専門学校	2
杏林大学	2	多摩美術大学	2	日本歯科大学	3	日本工学院専門学校	1
慶應義塾大学	2	千葉工業大学	3	日本薬科大学	3	バンタン映画映像学院	1
工学院大学	5	中央大学	7	広島国際大学	1	小計	7
甲南大学	1	鶴見大学	1	法政大学	10		
國學院大学	4	帝京大学	5	松山大学	1	合計	342
国際医療福祉大学	1	帝京科学大学	1	武蔵大学	3		
国際基督教大学	1	帝京平成大学	3	武蔵工業大学	3		

## 物故者名簿(『獨協通信』68号以降)

卒業年	氏名	物故年月日	昭18	昭19	昭20	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50
大15	藤永 善作	平19.3.10	昭18	昭19	昭20	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50
昭03	渋谷 勲	平18.10.16	昭19	昭20	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50	
昭06	井口 泉	平16.10.20	昭19	昭20	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50	
昭06	木藤 了志	平19.8.14	昭19	昭20	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50	
昭10	柳田 光男	平17.8.30	昭19	昭20	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50	
昭11	蔡 福江	詳細不明	昭20-5	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50		
昭14	吉村 正也	平18.7.21	昭20-5	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50		
昭14	坂部 昌	平19.8.10	昭20-5	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50		
昭15	田口 豊士	平19.6.20	昭20-5	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50		
昭16	國井 和二郎	平18.11.18	昭20-4	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50		
昭16	中沢 正	平18.11.10	昭20-4	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50		
昭16	高橋 正泰	平17.9	昭20-4	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50		
昭17	須貝 良平	平19.6.19	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50			
昭18	深瀬 欣也	平18.10.25	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50				
昭18	茂木 要	平18.10	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50						
昭18	蛭原 誠有	平17.11.20	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50								
昭18	野村 有市	平17.10.24	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50								
昭18	藤田 浩	平18.10.7	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50									
昭18	塚本 靖	平18.5.25	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50									
昭18	船本 吉房	詳細不明	昭27新中	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50									
昭18	榎田 節夫	平18.9.30	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50										
昭18	津田 孝悌	平19.10.7	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48	昭49	昭50										

## ● ● ● ● 学 園 だ よ り ● ● ● ●

189人を送りだす、獨協高等学校卒業式  
 第60回獨協高等学校卒業証書授与式が3月10日、寺野彰学園理事長、鈴木荘太郎同窓会会長、ドイツ連邦共和国大使館バルバラ・ナガノ文化副部長らの臨席のもと100周年記念体育館で行われた。  
 永井伸一校長は「6年間で培った知識は一生を

左右する。大学では普遍的な知の探究をしてもらいたい。天野理念は知的欲求であった…」と式辞を述べられた。鈴木会長からは松原祐之介君ら5名に同窓会特別賞を、卒業生全員に携帯ストラップが卒業記念品として贈られた。  
 210人の新入生、獨協中学入学式  
 平成20年度の獨協中学校の入学式が4月6日に行

われた。永井校長は式辞の中で「規律を守り礼儀正しく上品に、物事に感動すること、我慢強さを身に付けて欲しい」と呼びかけた。新入生を代表として神尾友彬君の希望あふれる宣誓があった。

獨協中学・高等学校人事

退職 海野 由梨枝（事務次長）

白土 祐二（総務係長）

新任 萩原 学 千（会計係）

田倉 定（総務係）

同窓生からの寄付

次の個人・団体から寄付の申し出があった。

菅谷 敦人（昭和58卒）

小諸同窓会 代表 岩内伸幸（昭和58卒）

学校説明会のご案内

日頃は獨協中学・高等学校の教育に対して多大なご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

さて、2008年度入試に向けて、今年も下記のように学校説明会を開催致します。皆様のご子息やお知り合いの方に、ぜひ今の

獨協中高の様子を知っていただけたらと存じます。説明会には予約が必要な小講堂開催のものと不要な体育館開催のものがありますが、予約制の会は校舎見学の際に案内者がご説明させていただくようになっています（不要の会は自由見学）。ご都合がつくようでしたら、ぜひ予約制の会をお勧めいたします。

なお、予約は8月1日からホームページで行います。

### 2008年度 学校説明会一覧実施日

実施日	説明会名	予約	会場	開催時間
9月 13日 土	学校説明会	要	小講堂	14:00 ~ 16:00
10月 4日 土	学校説明会	要	小講堂	14:00 ~ 16:00
10月 12日 日	学校説明会	不要	体育館	10:00 ~ 12:00
11月 1日 土	学校説明会	要	小講堂	14:00 ~ 16:00
11月 22日 土	学校説明会	要	小講堂	14:00 ~ 16:00
12月 8日 月	学校説明会	要	小講堂	14:00 ~ 16:00
12月 9日 火	学校説明会	要	小講堂	14:00 ~ 16:00
12月 14日 日	学校説明会	不要	体育館	10:00 ~ 12:00
1月 11日 日	直前学校説明会	不要	体育館	10:00 ~ 12:00
9月 27日 土	獨協祭 入試相談室	不要	教室	10:00 ~ 15:00
9月 28日 日	獨協祭 入試相談室	不要	教室	10:00 ~ 15:00

## 第9回獨協 Doctor's Club 学術講演会が開催される

昭和35年卒 荒川 泰行

獨協学園を卒業して医学・医療の分野で活躍されている1,000名を超える同窓生の学術情報交換と親睦を深め、かつ母校の充実と発展に寄与することを目的として平成12年1月に発足した職域での獨協学園 Doctor's Club（ドクターズクラブ）であります。その第9回学術講演会が昭和大学獨協学園同窓会の吉津 徹先生（秦病院副院長）らが当番幹事となって、平成20年2月23日（土）午後5時より椿山荘1F「ペガサス」において開催されました。鈴木荘太郎先生（獨協学園同窓会長、東邦大学医学部、昭和35年卒）の開会の挨拶の後、吉津 徹先生の座長で芳野博行先生（昭和大学第3内科講師）による「心エコーの新技术、その臨床応用」と、岡崎 修先生（国立国際医療センター腎臓・循環器科医長）による「循環器疾患の最新画像診断と治療について」の二つの教育講演が行われました。両先生による循環器疾患の最新の画像診断と治療についての講演は、日常診療において大変役に立つ有意義な医療情報が盛り込

まれた内容で、参加者に深い感銘を与えて裨益することが大きかったと思います。この後、木原正義先生（獨協学園PTA会長、きはら整形外科、昭和47年卒）の座長で永井伸一先生（獨協中学校・高等学校長）によって「獨協学園の現状について」と題してこれまで進めてきた天野イズムに根ざした教育改革の進捗、学園の教育環境、施設の整備計画、環境教育と読書運動の成果、大学進学状況、入学試験情報、経営改善、そして将来展望などについて教育者として、また校長として大変情熱と創造に溢れる格調高いご講演が行われました。永井校長先生はじめ教職員皆様のご努力とご苦労、そして120有余年を超える歴史と伝統を礎にして母校が年々充実してスクール・アイデンティティを増して発展の一途を辿っていることは素晴らしいことであり、このことは私ども同窓生にとってもこの上ない喜びであり、また同窓生の絆を一層深めるためにも結構なことであると考えます。学術講演会は松島正浩先生（黒田病院、

昭和35年卒)の閉会の辞で盛会のうちに終わりました。

次いで、学術講演会終了後の情報交換会が、参加者一同で記念の集合写真を撮影した後、荒川泰行(公立阿伎留医療センター、昭和35年卒)の開会の挨拶で始まりました。椿山荘ならではの美味しいご馳走とお酒を賞味しながら、参加者の近況報告があり、また会場ではあちこちに卒業大学や先輩・後輩の垣根を超えて学術情報交換と親睦の輪が広がり、お互いに懐かしい獨協学園時代にタイムスリップすることができた楽しい一時でした。こうして、第9回獨協ドクターズクラブの情報交換会は、午後8時過ぎに藤田実彦先生(藤田医院院長、昭和35年卒)の閉会の辞で全て滞りなく盛会裡に終了しました。なお、今回も矢田貝茂雄先生(やたがいくリニック院長、昭和51年卒)には同クラブの世話人会の準備や会員通信に大変お世話になり感謝したいと思います。

最後になりますが、同窓会・同窓生の役割の一つは、母校のパートナーとしてなんら見返りを求めずに母校をいろいろな形で支援することであ

ります。今回も会費の一部から後輩達の図書購入費用として一金5万円也を母校に寄付させて頂きましたことをご報告致します。獨協ドクターズクラブの同窓生は、母校愛の精神に燃えていますので、第一回の学術講演会開催以来継続的にこのような形でバックアップを行ってきました。ささやかな善意ではありますが、母校の図書館の質向上の一助になることができるのであれば望外の喜びであります。今後各年度の同窓会やクラス会を開く際に、幹事の皆さんが金額の多寡にかかわらずこのような支援をご一考されるとよろしいのではないかと思います。このような提案(母校獨協学園の図書購入を支援する募金活動)が是非大きな輪となって広がりますことを期待します。



職業別記入番号表	1. 水産・農林・鉱業	13. 銀行・その他金融・保険	25. サービス・外食・料理旅館	外科
	2. 紙・パルプ・繊維	14. 証券・商品先物	26. 芸術・文化	整形外科
	3. 科学・医薬	15. 建設・不動産	27. 宗教・各種団体	小児科
	4. 石油・ゴム・硝子・窯業	16. 陸海空運・倉庫	28. 学生・その他	産婦人科
	5. 鉄鋼・金属	17. マスコミ・通信・広告	29. 医師：開業医	眼科
	6. 電気機器・機械	18. 情報・コンピュータ関連	30. 医師：勤務医	皮膚科
	7. 造船・自動車	19. 議員・公務員	31. 歯科医師：開業医	耳鼻咽喉科
	8. 事務機その他機器	20. 教育	32. 歯科医師：勤務医	精神神経科
	9. その他製造業	21. 設計士・エンジニアリング	33. 薬剤師	泌尿器科
	10. 電気・ガス・水道	22. 弁護士・会計士・税理士・その他資格士		放射線科
	11. 商社・卸売	23. 出版・印刷	医師の診療科一覧	麻酔科
	12. 百貨店・スーパー・小売	24. 医薬・化粧品販売	内科	その他

## 編集後記

本号は皆様の協力を得まして多くの原稿が集まりました。せっかく原稿を書いていただいた方には誠に申し訳ございませんが次号に掲載させていただきたく考えています。

また、同窓会報は獨協中学・高等学校のホーム

ページ上からリンクがされている獨協同窓会のホームページでもお読みいただけます。ホームページには懐かしい写真などもあります。経費節減が議論されている昨今、ホームページでご覧いただける方が増えますことを期待しています。(竹文)